カルニチンの長期投与は、透析患者の筋肉劣化を予防する

～心機能と骨格筋肉量～

長崎腎クリニック　長崎腎病院
○橋口純一郎　佐々木修　一ノ瀬浩　李嘉明　澤瀬健二　原田孝司　船越哲

【目的】
透析患者へのカルニチン長期投与が筋肉の経年変化（劣化）に対して効果があるのかを検討する

【方法】
対象は透析導入後 2 年以上で安定している外来透析患者 30 名。カルニチン投与開始前 1 年間とカルニチン 1000mg/HD 投与開始後 1 年間の計 2 年間で経年変化を比較検討する。調査項目は UCG と心胸比、%CGR を用いた

【結果】
カルニチン投与前 1 年間で、FS は 39.6 から 37.5(P<0.05)、E/A は 0.97 から 0.79(P<0.005)、CTR は 49.9 から 50.9(P<0.05)、%CGR も 121.4 から 115.2(P<0.005)と経年悪化していた。しかし投与開始 1 年後ではいずれも前年から有意な低下は認めなかった

【考察】
中等度以下のカルニチン欠乏である透析患者においては、カルニチン補充でも心機能上昇は起こらないとされる。しかしカルニチンの長期不足状態は脂肪酸を多く消費する心臓・骨格筋などにおいて、経年機能低下の原因となる可能性は否定できない

【結論】
カルニチンの長期投与は、透析患者の筋肉劣化を予防できる可能性がある